

入選

飯島 佑香 (いいじま ゆうか) 由木中央小 4年生

作品名: おおかみこどもの雨と雪を読んで

図 書: おおかみこどもの雨と雪

こんなに長い小説を読んだのは、このおおかみこどもの雨と雪が初めてでした。始めは読むのがむずかしかったけど、すぐに読むことができました。長い文章が初めての私でも、すぐ読み終えることができるくらい、と中からむ中になってしまいました。

雨と雪が、自分はどうやって生きていくのか、おおかみとしてか人間としてか、どちらの道を進んでいくのかで、けんかをしたりなやんだりします。それほど一生けん命だったのだと思いました。雪は人間として生きていくことを決めて、雨はおおかみとして森で生きていくと決めました。雨が森に行ってしまう、それをお母さんの花があきらめないでさがす姿を考えると切なくなりました。花はおおかみとして生きると決めた雨の気持ちを大切にしたいと思ったと思います。でも、ずっと一緒にくらしていたし、家族だからやっぱりずっと近くにいたいと思ったのかなと思いました。雨と雪は、自分たちが決めた生き方で生きていけるので、とてもうれしかったらうと思うし幸せだなと思いました。雨はおおかみになってしまったので、もう人間として花や雪に会うことはできないけど、きっと、花と雨と雪そして雨と雪のお父さんの心と心がつながっている気がしました。だから雨は、おおかみとしてりっぱに生きて森を守っていけるし、花もいつでもみんながそばにいるように思えるので、さびしくないんだと思いました。

私も、いろいろなことをいつも決めながら生きています。決めたことで、結果がよくない時はくやしいけれど、自分で決めたことだから仕方ないと思います。結果がよかった時はうれしいし、選んでよかったと思います。どんなことでも、自分できめることは大切だと思いました。そして、花のように相手の気持ちを大切にしたり、あきらめない気持ちも大切だと思いました。私はあきらめてしまうことが時どきあるので、私もあきらめないで最後までやりぬける人になりたいと思います。この二つのことを忘れずに、毎日すごしていきたいです。